

# いこうじちゅうもん 医光寺中門

## 1. 建物の概要

所在地	益田市染羽町
所有者	宗教法人医光寺
建築年代	安永年間（1772～1780）
登録年	平成 29（2017）年
構造等	木造、瓦葺、間口 4.6m 建築面積 18㎡



【医光寺中門】

## 2. 沿革

医光寺は中世に益田地域を治めた益田氏の庇護を受けた臨済宗の寺院。

享保14（1729）年の火災により伽藍が焼失した後、本堂、庫裡に続き再建。

境内には、他にも雪舟が作庭した庭園（史跡及び名勝）や七尾城大手門を移築したとされる総門（県指定有形文化財）などがある。

## 3. 建物の特徴

医光寺中門は、中央門扉の親柱を挟んで前後に2本ずつ計4本の控柱を伴う四脚門形式で屋根形式は切妻造である。本柱は丸柱で、控柱は角柱、柱同士をつなぐ横架材には江戸時代の作であることを特徴づけるように華美な彫刻、絵様を見ることができる。

横架材のうち一番下になる頭貫には唐獅子や象をあしらった木鼻が備えられているもの、亀甲紋の地紋彫が施されたものがある。その上に架けられた虹梁には、江戸時代後期の特色を伝える渦と若葉が一体となった絵様を見ることができる。虹梁の上には彫刻の入った曇股、出組組物で支えられた桁や棟木がのせられている。

医光寺中門はその他にも全体的に装飾豊かな意匠を纏い、江戸期の門らしい特色を私たちに伝えてくれる。



【小屋組の大瓶束や笈型で棟木を支える】



【木鼻に彫刻が施された頭貫】